

JUNET 協会の今後の計画について

9月3日に行われた JUNET 協会総会の席上で、来年10月末をもって JUNET 協会を発展的に解消し、協会を解散することを発表しました。これにより現 JUNET 協会会員組織は来年10月末までに、他のネットワーク管理組織へ移行していただかなければなりません。JUNET 協会は、今後この移行が円滑に行われるように可能なかぎり支援を行います。また、解散については JPNIC 等の関連機関との連絡を密に行いながら、混乱が生じないようにいたします。

なおこの措置は、別紙「JUNET 協会解散決定の経緯と主旨」に示したように日本のネットワークが正常な形となるための活動の一環であり会員の皆様のご理解とともに、スムーズな移行をお願いいたします。

JUNET 協会会長
砂原 秀樹

日程

- 1994年5月1日より 新規会員受け付けの停止
- 1994年10月31日をもって JUNET 協会の活動停止

JUNET 協会解散決定の経緯と主旨

JUNET 協会会長 砂原 秀樹

JUNETは1984年10月東京工業大学、慶応義塾大学、東京大学を接続する形で誕生しました。JUNETは、日本初のアカデミックネットワークであり、アカデミックネットワークの概念を世の中に広めるとともに、ネットワーク研究者たちのための実験環境として構築されました。そのため、JUNETの運営はボランティアに支えられていました。しかし、アカデミックネットワークの有用性が明らかになるにつれJUNETは爆発的に発展し、こうしたボランティアによる運営は困難になってきました。さらに、電子メールや電子ニュースを配送するネットワークは実用となる道具と認知され、広く利用されるようになります。

こうした背景から、ネットワークの運用をボランティアに頼りつづけることはできないことは明らかです。そのため、現在日本ではネットワークの再編成が行われています。こうした動きの一つが、日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)の設置です。JPNICは、インターネットを含む日本全体のネットワークの状況を把握し、全体が円滑に運用されるようにするための組織で、IPアドレスの割り当て、ドメイン名の割り当て、全体の統括などをおこなっています。センター長は慶応義塾大学の村井純氏で、各参加ネットワーク組織から納められる会費で運営されています。

同時にデータの転送形式も、UUCPによるバケツリレー型から、IP接続に基づくInternetに置き換えられつつあります。特に、国内のバックボーンや地域内のネットワークなど幹線経路はほぼインターネットに置き換えられてきています。これらの通信経路の運用や費用の負担は各ネットワークプロジェクトでまかなわれています。また、ネットワークの有用性が示されたことから、ネットワークを例えば商品のプロモーション、流通、サポート、業務用の通信といった目的に利用したいという要求が出て来ています。このような利用をささえるためにはネットワークとの接続性を提供する商用サービスが必要であり、すでに国内でもいくつかのサービス提供を行う会社が登場しています。

このような急激な変化の中でJUNET協会は、商用ネットワーク等が、正常に立ち上がり、すべての組織が正しく新しい環境に移行できるまでの間、どのネットワーク組織にも所属できない組織を受け入れる場所として発足しました。現在のJUNET協会ではJPNICに関する費用と事務委託のための費用だけを会費として徴収しておりますが、ネットワーク運営にかかわる費用と運営はボランティアに頼っているままの状態です。この状況は正常な状況とは言いがたく、速やかに正しい運用形態に移行することが必要です。そこでJUNET協会は別紙に示した通り来年10月末をもって発展的に解消することを決定いたしました。今後約1年間の活動として会員組織が速やかに適当なネットワーク組織に参加できるよう支援していきたいと思っております。会員の皆様の御理解とともに、御協力いただきますようお願いいたします。